SORA
web magazine 2019.nov. vol.126
Travel

龍馬号が見せてくれるパラオの海中景色！

Photo & Text : Yasuaki Kagii

パラオという極上の海で、デイドリームパラオという熟練のダイビングサービスがオペレートするダイブクルーズ船「龍馬号」。就航10年目を迎える今、より快適に、より充実した内容のクルーズライフを提供してくれる。今回感じたクルーズ船の魅力は、何と言っても誰もいない有名ポイントにエントリーできるチャンスが1日に2回あるということ。他のダイバーがいない、ストレスの少ないパラオの海が、龍馬号が見せてくれた海中景色とは……！

MAP CLICK!

tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく島
tsumishima.com
World explorer
(株)ワールドツアープランナーズ
www.wtp.co.jp
© 2019
World Tour Planners Co.,Ltd.
All Rights Reserved.

まずは、ウーロン方面へ！　グラスランドから！

ファーストダイブはチェックダイブを兼ねて、グラスランドに潜り込む。龍馬号からテンダーボートに乗り込みポイントに近づいて行くと、水面の色がどんどん鮮やかに変化していく。濃紺から彩度が少し高過ぎると思ってしまうほどの水色。その色を見ただけでも、もうパラオに来た価値があると思えるほど。これまでに数多くパラオに訪れているが、この海にやって来るたび、その衝撃的な色彩に驚かされる。――今から、私たちはここで潜るんだ。

ボートからジャイアントストライドでエントリー。ソーダ水のような海水が身を包む。その心地良さを感じたまま、潜降ロープ沿いに降りて行くと、リーフの向こうに真っ白い砂地が見える。この広大な砂地が、先ほど見た鮮やかな水色の理由。砂地の上に移動して行くオオメカマスの群れが、自由に砂地の上で泳いでいる。ここにいるアジの仲間も、なぜか砂地に近い距離で泳ぐ。その様子がこのポイントの特徴だと私は思っている。他の海ではあまり見ることのない癒し系の景色。世界中から集まったダイバーが、このカマスの群れを楽しんでいる。また砂地では、このポイントの名前の由来となった、ガーデンイールが、ニョキニョキと首を出している。その様子が草原のようだと、このポイントの名前が付いたとのこと。パッチリーフは、クリーニングステーションもあり、様々なトロピカルフィッシュや、時にはマンタがやってくる。

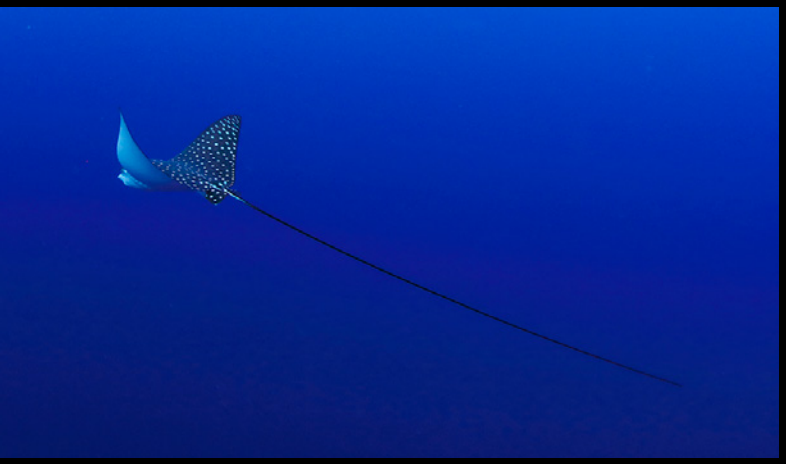
光を掴むシアストンネル

Palau Travel

パラオの中でも地形を楽しむポイントで、大きなトンネルにいくつかの穴があり、そこからの光が印象的。エントリー口となる大きな穴に行くまでは、カスミチョウチョウウオが群れ、ドロップオフに彩りを添える。そして穴に向かって水深を落とすと、30mを少し超えたあたりにギンガメアジが群れている。このくらいの水深で常に群れているギンガメアジをあまり知らないので、青い海を泳ぐ姿ばかりではなく、少し宇宙感のあるようなギンガメアジの写真を撮影したくなる。そのまま少し水深を上げ、トンネルの中に進入して行くと、天井や壁には、珍しいバージェスバタフライフィッシュやコリンズエンジェルフィッシュなどを見つけることができ、トンネル内の砂地では、アケボノハゼやヤノダテハゼがいる。トンネルを出て、ドロップオフを楽しんでいくと、今回はカメを３匹、小規模だがカンムリブダイの群れに遭遇した。

シアスコーナー

夕方に潜り込んだ人気のシアスコーナーは、他の船もなく、さすが、自由な時間帯に潜れるクルーズならではの強み、魅力を発揮してくれた。エントリーして、ドロップオフを進んでいく。壁を彩るカスミチョウチョウウオの大きな群れを眺めながら、棚上でご飯に夢中なタイマイにご挨拶。メインのコーナーに近づくと、メジロザメの数が増す。そこでカレントフックを使って体を固定し、生き物たちにストレスをあまり与えずに待つ。そのために、サメが時折急接近してくれる。またメアジの大きな群れが通り過ぎた。他のグループがいない人気のコーナーで、十分に楽しみ、最後はバラクーダを眺めながら、1日のダイビングを終えた。



人気のシアスコーナーとウーロンチャネル

ウーロンチャネル

朝、5時45分からブリーフィングを開始。その時点では辺りはまだ暗いが、ボートに乗り込み、5〜10分ほどボート移動している頃には、もう十分な光が海中に差し込んでいる。今朝も他のボートはいない独占状態。誰もいない海に飛び込む。生まれたての海の朝は、いつも間違いなく気持ち良い。まず、ドロップオフ沿いに進んでいく。カスミアジに追いかけられたクマザサハナムロやメアジの群れが忙しく泳いでいる。小さなマダラトビエイの子供を見つけた。その後、ギンガメアジを眺めながら、水路の中へ。豊かなサンゴに挟まれたまっすぐの水路を進んでいく。隆起したサンゴ、産卵に集まり出したハタ、水面から差し込む斜光、すべてが相まって、まるで物語のような景色を眺めながら進んでいった。

tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく島
We World explorer

Palau Travel

ブルーホールで青い冒険

パラオで、いやミクロネシアで一番有名な地形ポイントであるブルーホール。その昔、神様がリーフを掴んだ時に出来上がったと言われるいくつもの穴の中で、冒険ダイブをして行く。トップリーフにある大きな縦穴から潜降して行く。その下には、他の穴から溢れる光が行く方からも見える。その微妙な色の違いを知りながら、穴の中に落ちて行く。頭上を見上げれば、先ほど私たちが通って来た穴から、光が差し込み大きな柱のようにキラキラとしている。ホールの真ん中に漂い、四方八方を見渡す。外洋側の穴は青く、奥の光は白い。大きな潜水艦でも眠っていそうなホールの大きさを実感する。光と地形だけを見るのも楽しいが、そこにダイバーたちが加わると、冒険感が増す。未知なる世界を体感させてくれる1ダイブとなるに違いない。

tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく島

ブルーコーナー

パラオの大物、人気 No.1 ポイントであるブルーコーナー。ダイバーの夢がたくさん詰まったポイントである。潮流に乗りながらコーナーに向かう。まず、メジロザメが縦に何匹か並んで泳いでくるので、リーフの上でカレントフックを付けて待機。目の前を何匹ものメジロザメが通り過ぎる。時には、私たちダイバーを気にしてないの? と思えるような距離で泳ぐ。凶暴ではないサメだとわかっていても、あの目で見られるとさすがに緊張する。すると、みんなのところにナポレオンがやってきた。まるで犬のように絡んでくる。きっとゆで卵か何かをくれるのを待っているのだが、餌付けは禁止。この人は何もくれないと、認識する。別のグループの先頭のガイドに、すーと行ってしまう。わかりやすい生態だ。そして、リーフの中側でギンガメアジの群れに囲まれる。至福の時……。そうしているとガイドの秋野さんが、沖合を指差して、長い魚!とジェスチャーしてくれた。沖合に進んでいくと、大きなバラクーダの群れが登場! みんなで一所懸命カメラに収める。そして、またリーフに戻り、キャベツサンゴの上に群れるヨスジフエダイなども撮影。もう安全停止しようと水深をあげて行くと、先ほどとはまた違ったバラクーダが登場。円を描きなら、この海の中の時間を刻んでいるようにも思えるほど、静かでゆっくりとした動きだった。

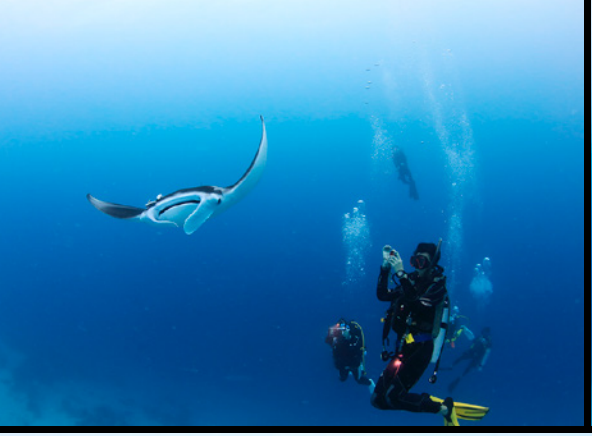
Palau Travel

tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく島
We World explorer

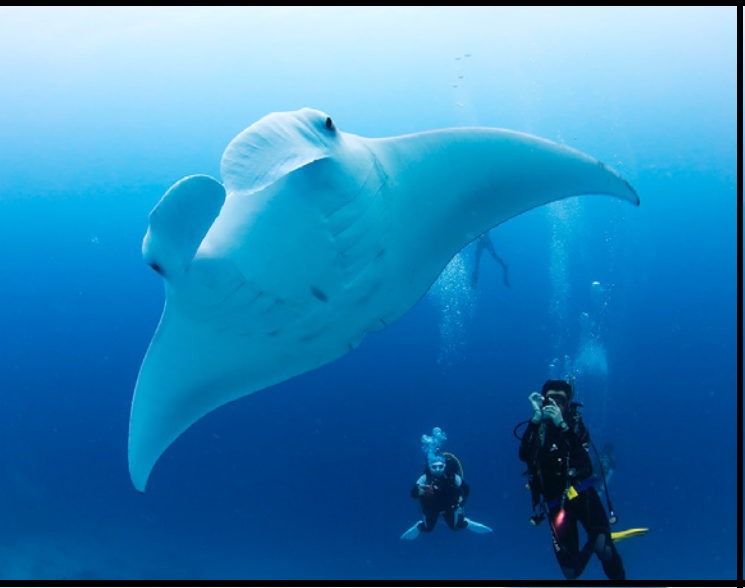
クルーズ特権！ 朝一番のブルーコーナー

Palau Travel

朝、5時45分からブリーフィング。でも、前日にも潜っているのであっさり終えて、ゆっくり準備を進める。ボートを10分ほど走らせてポイントに到着。他にボートもない、真っ新なブルーコーナーに潜り込む。上げの潮で、リーフを右手に見ながら進んでいく。この潮の場合、ギンガメアジがドロップオフ沿いにいることが多いので、まずはそれが見どころでもある。コーナーの方にゆっくり進んでいく。メジロザメが何匹も旋回するのが見える。ガイドの加藤さんは、水深を下げて、マクロ穴にゲストと向かう。そこで、人気のヘルフリッチやアケボノハゼを披露している。私は、水深13 m ほどで漂い、外洋を眺めている。ガイドさんが上がってきたので、そのまま棚のエッジに行き、カレントフックをかける。実はなかなか潮の流れが早く、魚たちもうまく潮をいなしながら泳いでいる感じ。ドロップオフの下から、何か塊が湧いてきたと思ったら、ギンガメアジの群れだった。どんどんと水深を上げ、棚上の私たちの目線までやってくる。そこにメジロザメが突っ込んでいく。沖合に目を向けるとバラクーダの群れがいた。棚上のハナビラクマノミとバラクーダとサメを一つのファインダーに収めて、ブルーコーナーの日常を撮影してみた。結局、1ダイブ中に、他のグループはエントリーしてこなかった。ありがたい時間だった。



Palau Travel



マンタ！　いるよ！
ジャーマンチャネル

パラオで長く愛されるマンタポイント。今回は、4本目のダイビングということで、スタートしたのが4時。ポイントに到着すると最後の1隻がダイビングを終え、コロールに戻るところだった。「マンタが1枚いるよ!」とアドバイスをもらったので、期待して潜り込む。最初、砂地の上に大きなエイを見つけ、撮影。白い砂地の上にギンガメアジとメアジの群れが泳いでいる。その優しい雰囲気を撮影。そして、いよいよ、マンタの登場!　だけど、なんか小さい!!!　泳ぎも下手で優雅というよりは、両翼の動きがあっていない。サイズから見てもきっと生まれたばかりのマンタ。好奇心旺盛で、怖いもの知らずな様子で、ゲストダイバーにまとわりつく。その様子がとても可愛く。お世辞抜きに、こんなマンタとの出会いは始めてだった。後半は、すべてこの小さなマンタとみんな遊んでエキジット。ゲストの1名が、「あのマンタ、しつこかったね～」と本気なのか? 冗談なのか? わからないコメントでボートに上がってきた。
思いがけなく思い出に残るダイブとなった。

tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく島

Palau Travel

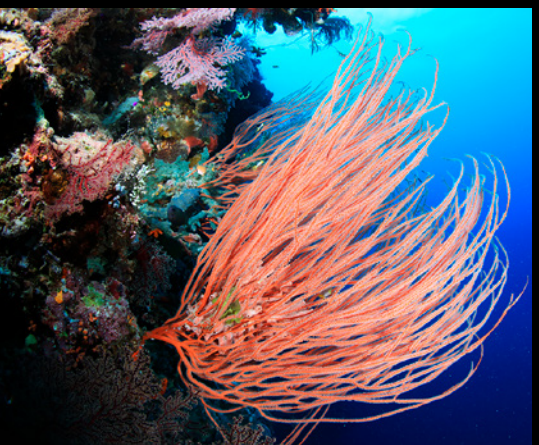
ビッグドロップオフ

ドロップオフの壁沿いを潜って行く。壁にはソフトコーラルやイソバナなどが群生し、カラフルな景観が続く。ヒカリモノのお魚などを見るパラオの王道ダイビングとは、また異なるスタイル。壁沿いに深度を変えていきながらゆっくりと進んでいく。クダゴンベやニチリンダテハゼの他、キャンディケインドワーフゴビーなどはいたるところで見つかる。コースの最後の方になると水深3mの浅瀬でもカラフルなソフトコーラルやイソバナがあり、少し不思議な景観も楽しめる。

ニュードロップオフ

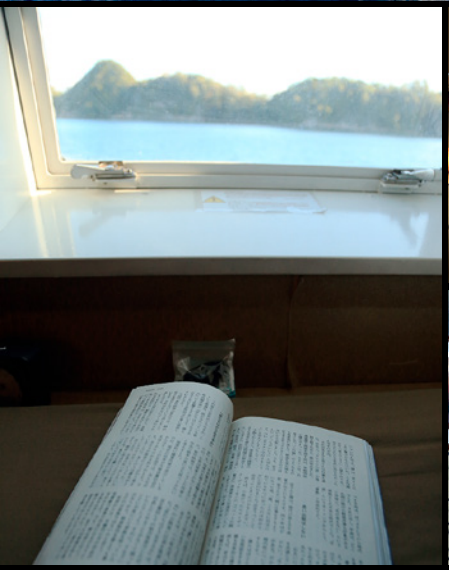
ミニブルーホールと称されるニュードロップオフ。地形も似ていて、三角形の先端の部分の、潮あたりが良い場所を目指して潜る。潮の流れに乗りながら、カスミチョウチョウウオの群れに出迎えられ、サメが回遊し、オオメカマスの群れに囲まれる。リーフの上には、ヨスジフエダイやノコギリダイが群れ、視点の先は、群れ、群れ。今回、あまり潮が流れていなかったので、根の先端で水深30mほどまで行くと、そこはソフトコーラルやイソバナなどが群生し、とても鮮やかで、賑やかな景観があった。

ビッグドロップオフ&ニュードロップオフ！



tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく島
We World explorer

Palau Travel



今回お世話になった龍馬号の魅了

今回、初めての龍馬号での乗船取材ということで、完全にフラットな状態からの視点で取材撮影することができた。大きな船体は、居住性の良さが考慮され、かつリビングから客室に伸びる広い空間や、奥の座敷など龍馬号ならではのこだわりを見つけることができる。龍馬号が就航してもう10年。もう真っ新な船体ではないけれど、少し古びた箇所は、これまでのパラオを愛して止まないダイバー達との歴史だと思うと少し感慨深い。また広い客室で、枕の上に広い窓がある。朝目覚めると、その先にロックアイランドが見える。こんな素敵なパラオでの借景はない。

客室は、スタンダード6部屋、デラックスが3部屋（客室にシャワー、トイレ付き）。最大乗船ゲスト18名。夕刻に用意される船上のジャグジーも素敵。水温は温かいけれど、それでも世界遺産の絶景を眺めながらの温かいジャクジーは心を癒してくれる。また、サンデッキも2ヶ所あり、気分によって日差しや風を感じる場所を選択できる。

ダイビングの魅力は、何と言っても、パラオの人気ポイントを貸し切り状態で潜れるということ。2本目、3本目はデイトリップと同じタイミングでエントリーすることもあるので、海中で他のダイバーに会うことも多いが、1本目と4本目は、まずポイント自体に他のボートがないので、全くの貸し切り状態。有名ポイントを、そして生き物たちを龍馬号だけで独占することができる。正直、これはとても素晴らしいクルーズならではの特権だと思う。また、水面休息時間は、必ず1時間以上を確保。それもゆったりとした船内で過ごすことができるのも嬉しい。

そして、龍馬号をオペレートするデイドリームパラオのガイド陣はエキスパート揃いなので、全てのゲストの満足を満たしてくれる。スライドを使ったわかりやすいブリーフィングはイメージを掴みやすい。更にAEDはもちろん、大きな酸素ボンベを何本を用意してあるので、緊急時の安全対応も万全。ナイトロックス無料。

tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく島

船上も美味しい日本食のオンパレード!

そして、パラオの海の魅力と同じくらいに素敵だったのが、食事。ベーシックはパラオで手に入る食材を使っての日本料理。3食ビュッフェスタイルで、お肉、お魚、サラダ、麺類、カレー、フルーツ、味噌汁、パラオ料理などなど、同じ品が出てくることがないほど、バラエティーに富んでいる。特に、海外の食を食べ続けることが苦手なゲストには、龍馬号の食事は天国かもしれない。脇能里子さん、乳井正さんの2名が、交互に専用シェフとして乗船する。今回は、同じ乗船だった乳井さんにお話を聞いてみた。「食事は皆で意見が言い合える時間と環境であり、出会いと楽しみが広がる世界だと思っています。龍馬号しかないオリジナリティのある料理を提供するのですが、例えば、見慣れた料理であっても、地元の食材も織り交ぜて、料理にストーリー性を持たせることを心掛けています。また、健康志向、発酵食品の知識を得ることで、同じ料理でも、違うものになると思っていますので、これからもゲストの方がより龍馬号での食事を楽しんでいただけるように取り組みたいと思っています」とのことでした。そして、食事をする環境がこれまたすごい。パラオの自然がパノラマで楽しむことができる空間で、海風が心地よく、朝夕の斜めの光も感動的。更に!2019年10月から生ビール、グラスワインが、夕食時は無料で提供される!　ダイバーには、吉報ですね（笑）。

Palau Travel

tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく島